

現代インドネシアにおける衣服の変化 — ムスリム服、国民服、アダット服の比較から —

塩谷 もも
(地域文化学科)

Clothing in Contemporary Indonesia:
Comparative Study of Muslim Clothing, National Dress and *Adat* Clothing

Momo SHIOYA

キーワード：衣服、インドネシア、ムスリム服、バティック、クバヤ
Clothing, Indonesia, Muslim Clothing, *Batik*, *Kebaya*

1. はじめに

本稿の目的は、近年のインドネシアにおける衣服の変化について、三種類の衣服（ムスリム服、国民服、アダット服）を比較考察することである。衣服はインドネシアの多様性を示すものとして、同時に国としてのまとまりを示すものとしても活用されてきた。オランダ植民地時代から20世紀末にいたるインドネシアの衣服について分析した論集（Nordholt 1997）に代表されるように、衣服は時代ごとの社会・文化的な状況を分析するのに重要な研究対象である。近年では、西洋化が進行する中で、衣服を通じて、インドネシアの文化的アイデンティティを主張する動きもある（Raihan 2019）。

本稿で扱う衣服は、宗教、国、地域のアイデンティティを示すもので、いずれも日常の中で着る機会が増え、世代を超えて着用されている。

1つ目の宗教のアイデンティティを示す衣服は、ムスリム服に注目する。ムスリム服は、イスラム教徒が見せてはいけない体の部位を覆った服で、女性用はヴェールとセットで着用される。本稿では、変化が顕著な女性用のムスリム服に焦点をあてる。

インドネシアは、人口の約9割をイスラム教徒

が占める国だが、筆者が初めて訪れた1994年当時、そしてジャワに住んだ2000年代の初め頃の服装は、現在と大きく違っていた。当時はヴェールをしたムスリム女性は少なく、ミニスカートの人も多かった。2000年代に入ってから少しずつムスリム服の着用者が増え、現在は多数派になっている。近年では、ファッション性の高いものを含め、様々なデザインのものが生みだされている（Bucar 2016、野中2015、塩谷2013、Yuyun 2016）。

2つ目の国としてのアイデンティティを示す衣服は、バティックとクバヤで、これらは国民服（バジュ・ナショナル）と呼ばれてきた（上利2009：16-17）。バティックはろうけつ染めの布で、ジャワ島を中心とした地域でつくられてきたが、独立時にインドネシアの衣服として採用された（戸津1989：77-78、フロレンティナ2011：259-261）。もとは巻きスカートとして着用されていたが、シャツやブラウスに仕立て、着用されるようになった。2009年のユネスコ世界無形文化遺産に登録以降、着用者が増加している。一方、クバヤは、女性用のブラウスで、バティックの巻きスカートとセットで着用される。近年、着用の拡大を目指す動きがある。

3つ目の地域ごとのアイデンティティを示す衣服はアダット服で、アダットは、慣習を意味する語である。多様なエスニック・グループ、言語、文化から成るインドネシアでは、地域ごとに異なる慣習が存在しており、それに基づいて衣服も大きく異なる。アダット服は、結婚式など人生儀礼を中心に着られる。近年は、着やすい形にしたものが、役所や学校などで、特定の日に着用されるようになっていく(塩谷2016)。

衣服の変化について記述する前提として、まずはインドネシアで、衣服の決まりがどのように意識されているかを記述し、その後で三種類の衣服について、近年の状況を事例に基づいてまとめる。さらに、それぞれの衣服の間での相互作用と変化に注目する。本稿はこれまで現地調査を実施してきた中部ジャワでの聞き取り調査・観察で得られたデータを中心に記述する¹⁾。

2. 衣服に関する決まりと意識

ジャワでは、日本に比べてより広い場面で、衣服に関する決まりが意識されている。場にあった服装をすることは重要で、場にそぐわない服装は、「服間違い」と表現される²⁾。

招待状に、国民服着用など、服装指定が書かれていることもある。近年は同窓会等でも、参加者に同じ色の服、ジーンズなど、服装が指定される場合があるという。これは集合写真をSNS上に掲載することを考えて、服装をそろえた方が見栄えがするため、とのことだった。

服をきちんと手入れして、着ることも大切である。ジャワでは外出用の服だけでなく、部屋着や下着、靴下まで、アイロンをかける。ホームステイ先では、通勤・通学前に、アイロンをかけなおす姿を目にしたこともある³⁾。また、調査地のクリーニング店では、アイロンをかけるだけのサービスも引き受けていた。アイロンかけの重要性は、ここからも分かる。

衣服の決まりに関しては、「家の服(バジュ・ルマ)」と「外の服(バジュ・ルワール)」の使い分けの重要性について、話をしてくれた女性がいた。調

査地の人々は、家にいるときは、女性はワンピース、男性はTシャツと半ズボンなど、カジュアルで涼しい服装をしていることが多い⁴⁾。近所に用事があるとき、市場での買い物等では、この服装のまま着替えずに、サンダル履きで出かける⁵⁾。

前述の女性は、それに続けて次のように話している。家に訪問者があった場合は、家の服を着ていたとしても、外の服に着替えて迎える。これはオランダ植民地時代の名残で、西洋は衣服に関するルールが厳格なためである。このつながりで、かつての同僚の話もしてくれた。その同僚は家にお客を迎える時には、服を着替えるだけでなく、靴を履いて迎えた(ジャワの家は、応接間では靴を脱がないことがある)。この同僚はキリスト教で、キリスト教の人は、家に人を迎えるとき、よりフォーマルな衣服を着用する傾向がある。ヨーロッパの影響を受けているからかもしれない、と話していた。

また、調査地である家を訪問した際、Tシャツとショートパンツ姿だった男性は、私を応接間に招き入れた後、長ズボンと襟付きのシャツに着替えて出てきた。ちなみに、この男性もキリスト教徒(カトリック)であった。服は相手への敬意を示すもので、Tシャツでお客を迎えるのは失礼なため、着替えてきたと話してくれた。ジャワでは着るものが重要だと話し、「人に配慮をした発言、そして内面の表れであるきちんとした衣服で、人は評価される」というジャワのことわざを教えてくれた。

この男性の着替え後の服装には、フォーマルな服の特徴が表れている。フォーマルな場では、上着は、ワイシャツ、ブラウス、ジャケットなど「襟のある服」が決まりで、正装では長袖のものを選ぶ。下はズボンの場合は長い丈のもので、半ズボンやジーンズは、カジュアルなものとして避けられる⁶⁾。靴は、革靴、紐靴、パンプス、ベルト付きのサンダルが選ばれるが、正装では必ず靴を履く。とくにベルトのないサンダルは、カジュアルなものとしてされている⁷⁾。この服装の決まりは、会社への通勤時、学校への通学時にも共通している。

制服のない大学でも、服に関する決まりが存在している。2019年に訪問したインドネシアの2つの

大学では、衣服に関する注意書きが写真入りで看板に示され、構内に置かれていた。国立大学の看板では、避けるべき服装として、半そでのTシャツとサンダルがあげられていた。それ以外にも、遅刻をすること、他者を敬わないこと、喫煙など、行為に関する注意も書かれていた⁸⁾。

もう一つはイスラム系の大学で、大学生のドレス・コード・エチケットと書かれた看板が置かれ、男性・女性に分けて注意書きが写真入りで紹介されていた。男子学生については、教育の場、事務室での手続き、構内での活動に参加する際に、禁止されているものとして、Tシャツ、破れた服やジーンズ、筒型の巻きスカート（サロン）、サンダル、帽子、長髪、ヘアカラー、ピアス、ペンダント、ブレスレット、タトゥーが挙げられていた。女子学生については、構内での活動に参加する際、体にぴったりとした服やパンツ、あるいは透けた生地のもを着用すること、ヴェールを着用しないことを禁ずると書かれていた。

3. ムスリム服と「正しさ」

1) ムスリム服の着用者増加

ムスリム服は、世界各地で地域によって特徴が異なり、時代によっても変化してきた。インドネシアのものは、色が鮮やかなものが多く、最近ではファッション性を重視したものも多い。ヴェールは顔が出ている形のもが主流で、目だけを出したヴェール（インドネシアでチャダルと呼ばれる）は、ごく一部のムスリム女性に着用されている。

ヴェールについても、衣服のように、場に応じた使い分けが意識されている。例えば、職場や学校などでは、一枚布を折りたたんでつけるヴェールが使われる。一方、縫ってあり、着用の簡単なヴェールは、それ以外の場で使われることが多い。

2010年代になってインドネシアでは、ヴェールやムスリム服の着用者が急増したが、これは強制されたものではなく、選択に基づいたものである。1980年代には、学校でのヴェール着用が制限された時期もあったが、1990年代に着用が認められた。1990年代末からの民主化の進行、イスラムの影響

力の強まり、ファッションとしての流行、周囲の人の影響など、様々な背景があって進行している現象である（野中2015、Shioya 2018）。ムスリム服はもとから多様であるが、着用者が増えてファッション性も重視されるなかで、さらに多様性が増した。こうした中で、人々の関心を集めているのは、ファッション性とイスラム的な「正しさ」のバランスである（Shioya 2018）。



写真1 近年のムスリム服（2015年8月撮影）

インドネシアでは、官製のイスラム組織であるインドネシア・ウラマー評議会が2009年に医療に従事する女性の仕事着について宗教的な見解（ファトワ）を出している。その見解によれば、医療行為上必要のあるときには、腕まくりが許される。また、仕事着は、透けない生地で作られたもので、体の線が出ないもの（Web①）とある。

2) 「正しい」ムスリム服に関する議論

ムスリム服については、ヒジャブ（ヴェール）にerをつけた、ヒジャバー・ファッションが2010年頃に登場し、若い女性を中心に関心を集めた。おしゃれでありながら、イスラムの規定を守ったファッションである。その一方で、肌は露出していないが、体の線が出たセクシーなムスリム服、ジルブーブス・ファッションをする人が、2014年頃から現れた。このファッションをめぐる、何が正しいファッションかという議論がメディアでも活発化した。

このときに、インドネシア・ウラマー評議会の副代表は、ジルブーブスはイスラムの服装規定に反し

ている。ヴェールをつけているのに、体の線を強調して見せることは禁じられていると発言した (Web②)。国立モスクの代表は、正しいムスリム服は4つのTから成るとして、インドネシア語の頭文字をとり、ムスリムが隠すべき体の部位を覆っていること、体の線がでないこと、生地が透けないこと、異性の服装を真似ていないこと、とコメントした (Web③)。

このように、ジルブーブスの登場は、逆に何が正しいムスリム服やヴェールかという議論につながった。また、同年には、イスラム法に適したという意味を持つシャルイー・ファッションが登場し、ファッション性とイスラム的な正しさを融合したムスリム服が流行した (Shioya 2018 : 69-71)。

近年はムスリム服について、正しいとされる形を絵で示すなど、より明確にすることもある⁹⁾。例えば、衣服に関する決まりについて、イスラム系の寄宿学校で学んだ女性は、そこでの経験を話してくれた。この学校では、着用するヴェールの大きさは150cm以上であることと、数字で示されていたとのことだった。以前は130cmだったそうだが、その長さでは不十分という見解が示され、150cmに変更されたとのことだった。

4. 国民服の変化：バティックとクバヤ

1) バティック

バティックは、ジャワ島を中心とする地域で作られてきた布である。インド発祥の更紗が起源とされ、溶かした蠟を使って模様を描くろうけつ染めで作られてきた。それ以外に型染、プリントのものもあり、現在は、製法より模様でバティックの布とみなされている。もとは男女ともに一枚布にひだを作って腰に巻き、上の部分を帯でとめる着方がされてきた。

様々な模様が存在し、地域ごとに模様や色に特徴がある。模様ごとに名前がついており、人生儀礼で使われる。例えば、結婚式で花嫁花婿は同じ模様のバティックを着用するが、「繁栄するように」という名前のもので、慶事にふさわしいものが使われる。

この決まりは今でも守られている。2018年にバンドン市で調査したジャワ人花嫁の結婚式で、花嫁

の祖母にバティックについて話を聞くことができた。彼女は、自分が着用しているバティックは、結婚式の日に花嫁の祖母が身に着けると決まっている模様で、この日のために準備したと話してくれた。



写真2 ジャワの婚礼衣装 (2019年8月撮影)

バティックは、かつては階層を表すものでもあり、王や王族等しか身に付けられない模様も存在してきた。現在も、王族のみが着用できる模様だったパランを、王宮内では一般の人は身に着けることを避ける。バティックは、階層差を示すものとしての意味も持ってきた。

インドネシア独立後は、国をまとめる文化的な象徴として、バティックは活用された。スカルノ初代大統領がデザイナーに依頼し、新たなデザインのバティックを創作するなど、地域の特徴や決まりから自由なバティックが作られた (戸津1989 : 77-78、フロレンティナ2011 : 259-261、松本2015 : 55-59)。

バティックは、「国民服」として、国家行事をはじめ、公式の場で着用されるようになった (上利2009 : 16-17、戸津1989 : 78)。国民服として着用される際は、長袖のシャツやブラウスに仕立てたものが使われた。下半身には、黒など暗い色のズボンやスカートをあわせる。フォーマルな場では、男性はこの服装にペチと呼ばれるつばのない黒い帽子をかぶることもある。

毎週金曜日はバティックの日で、職場や学校でバティックのシャツを着用する。バティックは、職場や学校、特定の行事などで着用するものが中心とな

り、1990年代頃には、私的な場で着用する人は減少したとのことである。

しかし、2009年にバティックは、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された。ユネスコに認定された10月2日はバティックの日として、全国でバティックを着用する日となった。インドネシアではバティックの再評価が起り、色に工夫をしたり、模様を組み合わせるなど、新しいデザインのもが生みだされ、ファッション性が増した。また、地域ごとの特徴を盛り込んだバティックも各地で新たに作られた。おしゃれなバティックが増加したことで、外出時に活用するなど着用者が増え、世代をこえて着用されるようになった(塩谷2016)。

2) クバヤ

インドネシアでは、バティックのシャツに加え、カイン・クバヤと呼ばれる衣服が、女性用の国民服として使われてきた。クバヤと呼ばれるブラウスと、バティックの巻きスカート(カイン)を組み合わせたものがセットになっている。クバヤもバティックと同様に、もとは階層差が反映されるものだった。

王宮でクバヤを着用するのは王族の女性で、それ以外の女性は一枚布を巻き付ける胸布を着用した。王族の女性が着用するクバヤは、襟のあるカルティニ式と呼ばれるクバヤで、丈が長めのものを着用する。貴族層の女性も丈の長いものを着用するそうだが、現在も王宮に仕える女性は、クバヤを着用する際、丈の短いものを選ぶとのことである。

近年では、クバヤについても、インドネシアを代表する衣服として、バティックに続こうとする動きがある。2014年には、日常の中で着用拡大を目指す「クバヤ・コミュニティ」が結成された。この団体は、クバヤのユネスコ世界無形文化遺産登録を目標としており、日常の中での着用拡大も目指している¹⁰⁾。そのため、毎週火曜日を、クバヤ着用デーとして着用拡大を図っている(Web④)。また、このコミュニティの代表は、街中でクバヤを着た写真、クバヤで登山をした写真をSNS上に掲載するなど、着やすさと動きやすさをアピールしている。

クバヤは、体の線にぴったりと沿っているのが美

しいとされ、採寸して仕立てて作るのが一般的である。ムスリム服の着用が拡大する中で、クバヤの特徴である体の線に沿ったものを、避ける動きもある。調査地での聞き取り調査でも、あえてダーツを入れずゆったりした形に仕立てる、自分のサイズよりも大きめに仕立てることで、体の線が出にくくなるなどの発言が、ムスリム女性から聞かれた。また、クバヤの生地はレースなど透けているものが多いため、肌が透けない生地のものを選ぶ、または透ける生地の場合は、全体を裏地でしっかりと覆うように仕立てるという声も聞かれた。

「ムスリム用のクバヤ」を着用する、と話した女性もいた。ムスリム用のクバヤは、丈の長さが通常より長いのが特徴だそう。通常のクバヤは、腰下くらいの丈のものが多いが、ムスリム用は膝丈である。ムスリム用のクバヤが登場する前から、クバヤの丈は時代ごとに変化しており、スカート丈のように、長いもの・短いものが、それぞれ流行してきた。着用者の身長にあわせて、似合う丈が選ばれることもある。一方、王宮の文脈では、前述のように丈の長さに階層が反映されている。しかし、近年では長い丈のものが、ムスリム用のクバヤと呼ばれるという変化が起こっているのである。



写真3 丈が異なるクバヤ (2019年8月撮影)

5. アダット服の着用拡大と簡略化

1) 日常の中でのアダット服の着用

「多様性の中の統一」をスローガンとするインドネシアでは、各地の慣習(アダット)を反映したアダット服が、多様性の象徴としての意味をもってき

た。学校の教科書でも、各地のアダット服を着用した人々が描かれている。

結婚式を中心として慣習に基づく人生儀礼は、地域ごとのアダット服が着られる機会となっている。例えば、ジャワの結婚式では、婚礼衣装として、ジャワのアダット服が使われることが多い。

前述のように、国民服であるバティックとクバヤの着用が拡大する一方で、地域ごとの多様性を示すアダット服も着用が拡大してきている。例えば、2017年には独立記念日の国家行事の際、これまでの国民服でなく、アダット服を着用することが決定された（Web⑤）。それ以降、大統領夫妻¹¹⁾と政府の要人、招待客は各地のアダット服を着て参加するようになってきている。また、地方自治体で行われる独立記念日行事でも、その地域のアダット服が着用されるように拡大してきている。

また、地方自治体単位で、アダット服を特定の日に着る動きも拡大している。例えば、中部ジャワ州のスラカルタ市では、2012年から毎週木曜日に学校や役所で、ジャワのアダット服を着用することとなった。導入の目的としては、地元産業の復興と伝統の継承が挙げられている。男性はブスカップと呼ばれる上着を着て、女性はクバヤを上半身に着用する。色は白とクリーム色で、下半身はバティックの巻きスカートを着用する（Web⑥、塩谷2016：56）。

バティックは、本来は一枚布を巻き付けて着るため、着付けが大変で動きにくい。しかし、毎週木曜日に着用するものは、見た目は巻きスカートに見えるものの、男性用はズボン型に縫ってあり、女性用はスカート状に縫ってあるため、着用しやすく動きやすい（塩谷2016：56）。その一方で、結婚式などの人生儀礼の際は、まっすぐなプリーツをつけて、縫っていない一枚布を巻き付けて着用する。

大学など教育機関でも、アダット服を取り入れる動きがある。2019年に訪問した国立大学では、学部の方針でアダット服を35日に一度（ジャワ暦では35日は一か月にあたる）着用するルールが取り入れられていた。2019年9月にこの大学を訪問した際は、ちょうどこの日にあたった。

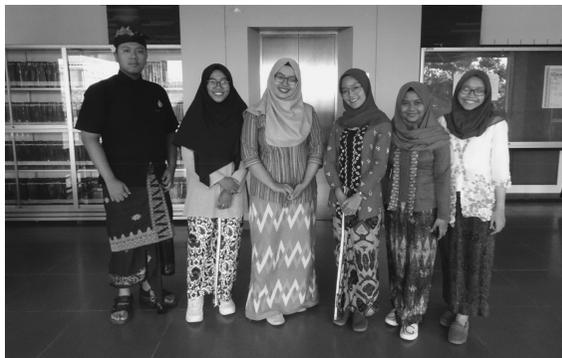


写真4 アダット服の大学生（2019年9月撮影）

この大学では、出身地のアダット服を着ることになっており、「写真4」の一番左の男性は、バリのアダット服を着ている。この学部の教員に、アダット服着用について話を聞かせてもらった。学部生が35日に一度アダット服を着るようになったのは、ここ3年ほどのことである。ただし、着用は強制されおらず任意であるため、着用しない学生もいる。アダット服を着用する日は服装だけでなく、行動も衣服にあわせるのが重要だ。例えば、大声で笑うことを避け、足を組まず、歩き方も上品にするよう注意をする、とのことである。また、この女性は最近のイスラムの影響力の強まりについても、言及した。もともとジャワの文化にはイスラムが混ざっているが、ジャワは中東とは違っている。例えば、文化の中心である王宮では、ヴェールをつけていない、と話された。

また、若者がアダット服を着る現象について、別の女性は以下のように発言している。自分が若い頃（1990年代～2000年代初め）は、結婚式に招かれた際、ワンピースやスカートを着用し、アダット服を着用することはなかった。しかし、今の若い世代の人は、友達の結婚式に参加するときに、着用するようになってきている。ただし、着用するバティックは、縫ってあって着やすい形になっている。若者がこうした服装をするようになった背景には、SNSの発信がある。アダット服を着た写真を載せることが、かっこいいという意識で捉えられている。また、大統領夫人がカジュアルにクバヤを着こなした写真も、流行に影響を与えた、と話した。

2) 結婚式で着用するアダット服の変化

簡略化したアダット服が日常のなかで着られる一方、人生儀礼等で着られる衣服については、衣服に関する決まりが今も意識されている。日常ではスカートやズボンの形に縫ったアダット服が使われるが、儀礼の際は一枚布のものが着方されることが多い。

2010年代のヴェール着用者の急増を受けて、アダット服の花嫁衣装も変化している。もとは結い髪に髪飾りをつけていたが、アダット服とヴェールを組み合わせ、肌の露出をおさえたムスリム式の花嫁衣装が着られるようになった(塩谷2013)。また、近年のムスリム花嫁衣装のクバヤはとてども丈が長く、足首くらいまでのものもある。クバヤの後ろの部分にスカートをつけて、後ろから見ると西洋のドレスに見えるタイプのものもある。

2018年9月と2019年8月にインドネシアを訪問した際、ジャワの結婚式を観察する機会があった。いずれの式でも普段はヴェールをしている花嫁だが、結い髪に髪飾りをしていた。最初は結婚式のためにヴェールを外したのかと驚いたが、よく見ると結い髪の上に、黒くて薄い布がかけられていた。また、クバヤの開いた襟元は、薄い肌色の布で肌が覆われている。2人の花嫁は、いずれも足首までのクバヤを着て、後ろにスカートをつけていた。

後日、花嫁の着付け師に質問してみると、花嫁の髪にかける布は、黒いストッキングなのだそう。以前から髪を黒い布で覆うスタイルはあったが、生地が厚かったので、つけにくかったそうである。それが、最近では、ストッキングの生地を使うことで、もとの結い髪に近い形が作られている。

近年では、ナショナル式(国内式=インドネシア式)と呼ばれる結婚式も増加しているとのことである。この式では、花嫁はウェディングドレス¹²⁾を着て、髪をしっかりと覆うムスリム式の白いヴェールを被る。ウェディングドレスは西洋のものと変わらないが、肌が露出しなくなっている。一方、花婿はスーツを着用するが、以前から花嫁がアダット服、花婿がスーツを着用するスタイルが存在してきた。また、ジャワ人の男性が、ムスリ

ムのアイデンティティを強調するために、ジャワのアダット服を避けて、スーツでの結婚式を選択した事例もある(塩谷2013:66-67)。

2019年に調査地で、ある家を訪問した際、テーブルの上に、ウェディングドレスの花嫁とスーツの花婿の写真が表紙になった披露宴の招待状が、たまたま置かれていた。この招待状について聞いてみると、これはナショナル式で、アダット式ではない結婚式だと説明された。最近では、結婚式の係を頼まれた際、自分の服装をあわせるために、結婚式の形式が、ナショナル式かアダット式かを事前に確認しているとのことである。

また、別の人にナショナル式の結婚式について尋ねてみると、やはり最近増えているとのことであった。ナショナル式では、慣習に基づく儀礼的な行為も省略され、アダット式のような衣服の決まりや大変さもないため、時間短縮、費用の節約につながるとのことだった。

6. おわりに

現在のインドネシアにおける衣服は、ムスリム服、国民服、アダット服を比較してみると、違いが明らかになる。ムスリム服は、ファッション性の追求と同時に、「正しさ」への意識が高まっており、決まりが厳格化する傾向がある。例えば、学校でのヴェールの大きさがcm単位で示されたり、「正しい」ムスリム服についての見解が、宗教的な権威者から出される等の事例からも、明らかである。

国民服となっているパティックは、2009年のユネスコ世界無形文化遺産登録以降、ファッションブルなものが生みだされ、決まりから自由なものを作られるようになってきている。クバヤについても、パティックの後を追う動きとなっており、日常の中で着用しやすいという点が強調されてきている。

アダット服についても、国民服と同様に、日常の中で着やすい形に変えられるなど、やはり衣服に関する決まりが、ゆるむ傾向にある。ただし、結婚式など人生儀礼に着用する衣服については、決まりが守られている。

ジャワで衣服に関する調査をする中で、日本の状

況について質問されることもあった。インドネシアの国民服やアダット服に比べて、着物を着用する機会が非常に少ないことを話すと、驚かれることが多かった。自分のアイデンティティを示す衣服を着る機会がないのなら、どのようなときに自分を日本人だと感じられるのか？という問いかけに、考えさせられたこともあった。たしかに、インドネシアの事例のように、自分のアイデンティティを示す衣服を着る機会は、日本では非常に少ない。

本稿の記述にあった大学の事例のように、若い世代の人にアダット服を着ることが拡大しているのも、インドネシアの特徴である。着る日が決められているだけでなく、SNSの普及も影響を与えていることが分かる。訪問した大学で観察したアダット服の日では、普段は着ない服の着用を、学生は楽しんでいるようだった。最初は違和感があったが、だんだん慣れてきたという声もきかれた。日本の若者が浴衣を着て、花火大会等に出かけていくのと、近い感覚なのかもしれない。ただし、記述した大学の事例では、35日に一度と着る頻度がより高い。

人生儀礼に着るアダット服については、インドネシアでも決まりが厳格で、日本の着物と通じるものがある。その一方で、インドネシアでは簡略化されたアダット服という選択肢があるが、日本ではそれが一般的でない。日本でも、明治期に着物を着やすい形にした「改良服」が生みだされたが、普及していない。この違いはなぜ生じたのか、今後は日本の衣服についても調べて比較しつつ、さらに衣服とアイデンティティについての考察を深めたいと考えている。

また、近年のインドネシアで衣服の変化に、大きな影響を与えているのが、ムスリム服の拡大である。どのようにイスラムの衣服に関する決まりとのバランスを保つか、他の衣服についても課題となっている。

ただし、これについては、結い髪の上につける黒ストッキングの「見えないヴェール」や襟元に肌色の布を使用したアダット服の花嫁衣装に顕著であるように、少し工夫をすれば、バランスを保つことは可能である。ナショナル式の結婚式のように、ウェ

ディングドレスであっても、ムスリム服の決まりを守れば、ムスリムの結婚式で着用できる。

前述のアダット式のムスリム花嫁衣装のように、もとのアダット服に近づけつつ、イスラムとのバランスを保つものが出てきている現象は、興味深い。ムスリム服が日常の中で非常に拡大したため、逆に国や地域のアイデンティティに、衣服を通じてもう一度目を向けるようになってきているのかもしれない。

本稿を執筆している現在は、新型コロナウイルスの影響で、約3年にわたって現地調査に行けない状況が続いている。調査地の人からのSNSを通じた情報によれば、結婚式に参加する際、最近はクバヤでなく、ドレス型の服が流行しているようである。このドレスがどのように意識されているのか、なぜ広まったのか調べてみたい。また、これまで女性の衣服に焦点をあててきたため、男性の衣服についても、今後は調査するつもりである。

現地調査を再開できた際は、最後に調査を実施した2019年以降の衣服の変化、そして、コロナ禍が与えた影響についても、聞き取り調査をしたいと考えている。

【謝辞】

本研究は、科研費新学術領域研究No.17 H06341「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築—多文化をつなぐ顔と身体表現—」の助成を受けたものです。

ジャワでのフィールドワークでは、調査地の皆様、大学関係者の皆様に大変お世話になりました。ここに記して、感謝申し上げます。

- 1) 2019年9月を最後に、コロナ禍の影響でインドネシアでの現地調査は実施できていない。そのため、本稿の現地調査に基づく記述は、2019年9月までのデータに基づいている。
- 2) 衣服に関する感覚の違いから、ジャワで場にあった服装を判断することは難しく、調査中に何度も失敗したことがある。選んだ服装がフォーマルすぎ、逆にカジュアルすぎて気まずい思いをすることがあった。ちなみに、かつて、

ある先輩インドネシア研究者は、ジャワで場に応じて、適切な服を選択できるようになるまでに、20年かかったと話してくれた。

- 3) アイロンについては、オランダ植民地時代の名残という説明も聞かれた。ホームステイ先では、乾いた洗濯物が大きな籠に積まれているのをよく目にした。母、娘、お手伝いさんと3人が、それぞれ手の空いた時にアイロンをかけていた。
- 4) 2000年代初め頃までは、年長者が家でくつろぐ際、Tシャツやブラウスに巻きスカートを着用している姿を目にした。男性は筒形に縫った布サロンを巻き、女性はバティックの一枚布を巻いていた。
- 5) このつながりで記述すれば、1994年に初めてインドネシアでホームステイをした際、住み始めて数日後に、ステイ先の母親から、「家の服」(シャツとズボンのセット)を贈られたことがあった。家と近所、市場へ行く際は、この服を着ると良いと説明された。当時、家にいるときも私がジーンズなど「外の服」で過ごしていたので、着替えが必要と思われたのだと考えられる。また、逆に外出するときに私の服が場にあっていないと、娘の服を貸してくれることもあった。
- 6) 半ズボンについては、シンガポールに長く住んでいるジャワ人男性から、経験談を聞いたことがあった。彼が住むシンガポールは、インドネシアに比べると服装が自由なので、その感覚に慣れていたそうである。インドネシアに帰国した際、用事があって役所に行った。たまたま半ズボンを履いていたら、「次に来るときは、長ズボンをお願いしますね」、と職員に注意され、違いを感じたとのことである。逆にシンガポールで保護者の会があり、子どもの学校に行った時は、インドネシア式のフォーマルな衣服で行った。すると、自分以外はみなカジュアルな服装だったので、ここでも衣服の違いを感じたと話してくれた。
- 7) サンダルについては、調査地の女性が、子ども

の通園先を探すため、幼稚園の見学に行ったときの話をしてくれた。その女性が見学した幼稚園では、先生がサンダルを履いていたという。それに驚き、幼稚園の質を疑って、通園先の候補から外したそうである。

- 8) 看板は英語で書かれており、留学生も意識したものと考えられる。この大学は、外国人向けインドネシア語コースが設けられるなど、留学生の数が多。
- 9) イスラムの事例ではないが、インドネシアで2019年にバリ島を訪問した際、ヒンドゥー寺院の前にも正しい服装が、写真と絵で示された看板が置かれているのを目にした。英語の併記もあったため、海外からの観光客を意識しても考えられる。
- 10) 実際には、クバヤはインドネシアだけでなく、近隣のマレーシアやシンガポールでも着られてきた衣服である。歴史的には、インドネシアにおいて、イスラム化が進行するなかで、着用されるようになったとされている。バティックについても、インドネシア、マレーシアどちらのものかという論争が起こってきた。
- 11) 大統領夫妻は、毎年インドネシアの違う地域のアダット服を選んで、着用している。
- 12) 以前から、インドネシアでは、キリスト教徒の教会での結婚式、アラブ系インドネシア人(イスラム教徒)の結婚式では、ウェディングドレスが使われていたとのことである。アラブ系の結婚式では、花嫁の手にヘナアートで模様を施すのが特徴であった。

【参考資料】

- 上利博規2009「インドネシアのバティックに見る手仕事の変遷と現代」『アジア研究』4：1-19
- 塩谷もも2013「モデルンなムスリム服の意味するもの：ジャワの結婚式を中心に」粕谷元・多和田裕司編著『イスラーム社会における世俗化、世俗主義、政教関係』SOIAS Research Paper Series10：59-74
- 塩谷もも2016「インドネシアにおけるバティック布

- の現状とアイデンティティ」『鳥根県立大学短期大学部松江キャンパス紀要』54：51-61
- 戸津勝正1989「インドネシアにおける民族文化と国民統合：BATIKの変容過程を中心として」『国士館大學教育論集』28：51-83
- 野中葉2015『インドネシアのムスリムファッション：なぜイスラムの女性たちのヴェールはカラフルになったのか』福村出版
- フロレンティナ、ユリカ・アユニングティアス2011「インドネシアの国民形成とバティック文化」『国士館大学大学院政経論集』14：243-271
- 松本由香2015『インドネシアのファッションデザイナーたち：多文化性・伝統・グローバルを読み解く』ナカニシヤ出版
- Bucar, Elizabeth M. 2016. "Secular Fashion, Religious Dress, and Modest Ambiguity: The Visual Ethics of Indonesian Fashion-veiling." *The Journal of Religious Ethics* 44: 68-90.
- Nordholt, Henk Schulte. ed. 1997. *Outward Appearance: Dressing State and Society in Indonesia*. KITLV Press.
- Raihan Adzкия Daruri. 2019. *The Role of Fashion in Constructing National Identity in Indonesia*. London College of Fashion
- Shioya, Momo. 2018 "Increasing Interest in Islamic Clothes and "Correctness" in Indonesia", in Tokoro I. and Tomizawa H. (eds.) *Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia Vol.2*. pp.59-76.
- Yuyun Sunesti. 2016. "Veiling: Between Social Imaginary and the Politic of Multiculturalism in Indonesia and Malaysia. *Musawa Jurnal Studi Gender dan Islam*. 15(2): 145-156.
- 【Web資料】**
- ①MUI 2009. Pakaian Kerja Bagi Tenaga Medis Perempuan: Fatwa Majelis Ulama Indonesia 「インドネシア・ウラマー評議会ファトワ：医療に従事する女性の仕事着」(Nomor:04/KF/MUI/Tahun2009) <http://mui.or.id/wp-content/uploads/files/fatwa/46.-Pakaian-kerja-bagi-tenaga-medis-perempuan.pdf>
- ②Sugeng Triono. 2014. "MUI Haramkan Jilboobs" 「インドネシア・ウラマー評議会、ジルブーブスをハラムとする」Liputan6.com 2014.8.07掲載 <https://www.liputan6.com/news/read/2087827/mui-haramkan-jilboobs>
- ③Fenomena Jilboobs: Imam Masjid Istiqlal: Jibab Ya 4T... 「ジルブーブス現象・イステイクルル・モスクのイマームのコメント・ヴェールは4Tであるべき」Solo pos 2014.08.07掲載 <https://www.solopos.com/fenomena-jilboobs-imam-masjid-istiqlal-jilbab-ya-4t-524475>
- ④Komunitas Perempuan Berkebaya Indonesia Ingin Kebaya Jadi Busana Harian 「インドネシア・クバヤ着用女性コミュニティは、クバヤが日常着になることを期待」2022.07.23Poros Informasi 掲載 <https://porosinformatif.com/2021/07/23/komunitas-perempuan-berkebaya-indonesia-ingin-kebaya-jadi-busana-harian/>
- ⑤Parade Baju Adat Warnai Peringatan HUT ke-72 RI di Istana. 「大統領官邸インドネシア72回目の独立記念日：アダット服のパレードが彩を添える」 Sekretariat Kabinet Republik Indonesia 2017.08.17掲載 <https://setkab.go.id/parade-baju-adat-warnai-peringatan-hut-ke-72-ri-di-istana/>
- ⑥Fajar Sodiw. 2012. "Jokowi: PNS Solo Pakai Seragam Busana Jawa." 「ジョコウイ市長：ソロ市の公務員ジャワ風の制服を採用」2012.02.09 VIVA.co.id掲載 <https://www.viva.co.id/berita/nasional/286805-jokowi-pns-solo-pakai-seragam-busana-jawa>
- (Web資料最終確認：2022年9月30日)
- (受稿 2022年9月30日, 受理 2022年11月9日)